

## キャリア教育の視点による授業改善（知的障害）

### 1 キャリア教育の視点での目標の確認

目標の確認は、学校づくりの視点と授業づくりの視点の両方で行います。

#### ① 学校づくりの視点

学校教育目標は、卒業後の生活に向け、学校ではどんな教育を目指しているのかが明記されています。再確認し、全校で共通理解をします。目標を具体的にしたことにより、狭義の目標になって目指す方向が見えにくい場合は、検討が必要です。学校教育目標が、「生きること働くことにつなぐ学び」の柱になります。

小学部、中学部、高等部の学部目標は、児童生徒の発達や年齢に基づき、ねらいや内容が高まったり広まったりしているはずで、それが、「キャリア発達」の具体的な目安になります。特に、学部間でのつながりや高まり、広がりを確認することが重要です。

#### ② 授業づくりの視点

育てたい力と知的障害の学習上の特性、指導形態のねらい等にずれがないかが重要です。实际的、体験的な学習を重要視するがあまり、させたい活動が先行し、単元で育てたい力と本時の目標や活動がずれてしまうことが見受けられます。特に、各教科等を含めた指導の形態の意味やねらいの理解が重要です。ここが理解できていないと、見かけ上、主体的な活動はしていますが、キャリア発達を促す主体的な活動にはなりません。

例えば、生活単元学習「修学旅行に行こう」では、児童が楽しみな修学旅行に向けての学習で、意欲や主体性を育てたいと考えます。その活動が、なぜか着替えを入れる整理袋作りに変身します。これは、袋作りという具体的な活動が先行し、本時では意欲的に袋作りに取り組みます。しかし、この単元の目的（生活課題）は、修学旅行であって、袋作りではないはずで、どうしたら楽しい修学旅行になるのか、この生活課題に向けた取組の目標が設定されなくてはなりません。

キャリア教育の視点にたった授業改善では、単元の目的に沿った単元目標や本時の目標と活動内容等にずれがないかを見抜く力が必要です。

### 2 キャリア教育と個別の教育支援計画・個別の指導計画

特別支援学校には、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用が学習指導要領に示されています。この計画が、「今の学び」の価値や意味の根拠になります。

個別の教育支援計画には、将来を見据えての今を明確にするために小学部の段階でも卒業後の願う姿の記載が重要です。作成に当たっては、P A T Hの手法が有効です。

（＊「個別の教育支援計画の作成と活用」の資料を参照）

個別の指導計画は、各授業での目標・支援を明確にし、「今の学び」の根拠になります。さらに、指導の結果や学びの評価を見え消しで加除訂正をします。この記録が、キャリア発達の軌跡になります。また、活用になります。

### 3 キャリア教育の視点での授業改善

キャリア発達を促す授業改善のポイントは、授業の意味付け・価値付けになります。

#### ① 児童生徒が「やりたい」「できる」「分かった」という授業になっていますか？

キャリア発達を促す授業は、児童生徒が「やりたい」「できる」「分かった」と意欲的、主体的に取り組む授業です。研究主題や研究テーマに、意欲や主体性を押さえた授業づくりに取り組んでいる学校も少なくありません。これらの学校は、キャリア発達を促す授業づくりに取り組んでいる例だといえます。

単に児童生徒がスキルを身に付けることのみを目指すのではなく、学習の課題に向かって「やってみたい」「やりたい」「できるようにになりたい」と思える「気持ち・意欲」をいかに育て、身につけたスキルをどのように活用しようとしているかに着目することが求められます。

#### ② 児童生徒の気持ちを捉えた指導構想、単元計画になっていますか？

単元計画に、児童生徒の気持ちを意識的に書き込んでいる学校も出てきています。教えたこと、やらせたい活動が優先すると、分かる・できる内容や活動であっても、必ずしも児童生徒の「気持ち・意欲」が育つとは言えません。活動はしているが、思考や判断、予想するといった考える活動がなければ、「自らしている活動」ではなく「させられている活動」「ただしている活動」となり、意味ある活動、価値ある活動にはなりません。もちろん、意欲や主体性の育ちになりません。

この「気持ち・意欲」は、単元名にも反映してきます。もちろん、単元の目標にも「気持ち・意欲」が位置付いているか確認することも大切です。

#### ③ 分かる・できるための支援の工夫が、本人に意味あるものになっていますか？

各学校の授業づくりでは、「教材・教具の工夫」「環境設定の工夫」「課題設定の工夫」「活動設定の工夫」などの視点を設けて具体的な工夫をしています。「分かった」「できた」ということは、達成感・成就感となり自己肯定感を高め、自信になり支援の意味付けになります。ここで大切なことは、工夫した支援が児童生徒の活動に意味あるものになっているか、児童生徒が使いこなしているかの確認・評価です。

#### ④ 支援の価値付けを高める評価（振り返り）をしていますか？

評価は、児童生徒が、工夫された支援は自分にとって有効だったのか、要らなかったのかを判断することが重要です。有効だったら、なぜ有効だったのかを価値付けできる働き掛けが大切になります。「〇〇の支援があれば、自分でできる」という自己理解を高めることがポイントです。まだ自分で価値付けのできない児童生徒には、「手順表の通りにやったんだね。そうすれば成功するんだね。」というように、教師が支援の価値付けをしていくこともあります。この場合は、活動中の即時評価もポイントです。自立ということは、何でも一人でできることを求めているものではありません。自分でできないことは、支援を受けてもいいのだということを知り、その支援を自分から求められることが重要です。

振り返りには、作業日誌、ワークシート等を効果的に活用する改善も重要です。

#### 4 キャリア教育の視点での授業改善 Q & A

- キャリア教育は、「知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）」に例示された4領域8能力を育成することですか。

それは誤解です。例示の目的は、各学校で自分たちが育てたい児童生徒像、そのために発達させたい能力・態度を考えていくための見本とすることです。

- 「知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）」の能力や観点を授業にどのようにつなげればよいのでしょうか。

そこに示された、「育てたい力」を育てるための授業をするものではありません。単元目標に、(将来設計能力)とか(人間関係形成能力)とか表記している指導案がありますが、あくまでもそれは、その単元の目標が(将来設計能力)に関連しているといったことだと考えます。例えば、「活動に見通しを持って、自分から取り組むことができる(将来設計能力ーやりがい)」のようにです。

活用という点で考えるとすれば、立てた目標にどんな意味があるのかということを確認することができます。授業によっては、該当する内容がマトリックスに見当たらないこともあります。それは問題ありません。教科や自立活動の内容に関連しているかもしれません。意欲や主体性が育まれる授業づくりを目指しましょう。

- キャリア教育の視点での作業日誌の改善について教えてください。

作業学習では、作業日誌を書くことが当たり前になっていると思います。「作業日誌って、何のために書くの?」と、つぶやいた高等部の生徒がいます。素晴らしいつぶやきです。そうです。この何のためにが、重要です。

「何のために?」「自己目標を明確にする。目標を意識化する。準備物を自己チェックする。今日の仕事を確認する。今日の仕事量を記録する。今日の仕事を自己評価する。次回の目標を立てる。反省を書く等々」が挙げられます。

これだけでは、まだ不十分です。自己目標を明確にするために、本時の作業を振り返って次回の目標が記載できる欄を設ける工夫もあります。それでは、次回は目標を書かなくてもいいかといえ、意識化するために、再度本時の目標欄を作っても構いません。今日の仕事の確認は、作業日誌でなくてもいいかもしれません。仕事量の記録は、出来高表やグラフにして記録すれば取組の変化が視覚化できます。自己評価や反省は、○とか×、がんばったとか目標数を達成したとかといった感想に終わらず、なぜ、そうなったのか理由を明確にすることも支援の工夫の評価(意味付け・価値付け)につながります。特に障害の重い生徒の評価に関しては、作業活動中に○や×に値する行動があったら、シール等で即時評価をしておいたりICTを活用して映像化したりして、振り返りの根拠を分かりやすくします。

- 授業改善のポイントは何か。

第1は、何のための授業、活動、支援なのかの確認です。第2は、自立に向けた主体性・意欲の育成になっているかです。第3は、評価です。評価は、児童生徒の側だけでなく、指導者の側での評価が授業改善につながります。